（平成３０年６月１９日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成29年１１月末	平成30年２月末	平成30年５月末見通し	平成30年８月末見通し
－５９千トン ［　２１７７千トン　］ （９７．４%）	＋７２千トン ［　２２４９千トン　］ （９８．７%）	＋４５千トン ［　２２９４千トン　］ （１０２．０%）	－２３千トン ［　２２７１千トン　］ （９９．０%）
２１６９千ﾄﾝ（99.6）	２２２０千ﾄﾝ（99.6）	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成29年１２月末	平成30年３月末	平成30年６月末見通し	平成30年９月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 82,200 円で前年比＋10,200円、前期比では＋3,300 円。様変わりの市場動向となった。継続するメーカー値上げにより市況が動き出し、需要も製造、建設とも堅調であった。需給はタイト化し、鋼板、形鋼、コラムなどが品薄となり、歯抜けサイズも散見された。この良好な市場環境にあっても、流通は値上げ転嫁が進まず、粗利の低下に悩まされていた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 86,300 円で前年比＋9,400 円、前期比では＋4,100 円。荷動きは期待した程、動かなかった。市場には一服感が漂い、需給タイト感は薄れた。そのなかにあってメーカーは一貫して値上げ指向を堅持し、更なる値上げで流通はその対応に追われた。値上げ転嫁は難航し、粗利低下により先々の採算確保に苦慮した状態となった。	数次にわたるメーカー値上げの転嫁は道半ばで、流通は積み残し分の転嫁を推し進めている。メーカーは相変わらず強気姿勢で、更なる追加値上げも表明しており、流通の採算確保の危機感が強まっている。需要は堅調ながら店売りの荷動きが盛上らず全般的に横ばいで推移。販売単価を押し上げるほどの盛上りは感じられない。現状、需給のタイト感はなくなり、なんとか均衡を保っている状態である。	季節的な要因で建設中心に繁忙感が高まると期待しているが、人手不足の慢性化や運送問題で工期遅れなどが生じ、需要が仕事に繋がらないケースも懸念される。さらにはファブ、ゼネコンが手一杯の工事量を抱えているため期待したほど荷が動かないかもしれない。景況感が復調になる需要期前に価格転嫁を急がないと収益悪化は免れない状況になる。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流動調査４月結果によれは、在庫は前月比－3.5%と減少しているが、前年同月比では＋9.1%と増加している。薄板３品在庫も４月末４１５万３千トンで前月比－2.6%と減少した。但し、昨年末のタイト感は月を追うごとに薄れ、現状の在庫状況にタイト感は感じられない。販売は前年並みか微増程度を継続している。需要は堅調に推移し、市況も強含み基調だが、販売単価を押し上げるまでの勢いはない。メーカーでは在庫調整を進めているようで今後、市中在庫は減少していくのではないか。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）４月～５月は需要端境期ということもあり、荷動きはパッとしなかったが、6月に入り、中小物件を中心に多少動きが出てきた。しかしながら、メーカーの高値玉の入荷により、流通の採算は悪化してきており、販売単価への転嫁に全力をあげているが、需要は堅調とはいえ、販売単価を押し上げるほどの迫力がないため苦労している。　来期は、関西では目立った大型物件はないものの、中小物件で動意が見られそうな感じで、公共土木の予算の実効化にも期待したい。

（愛知）２月をボトムに３月から荷動きは回復傾向。通年ならば季節要因で４～６月は落ち込むが、４月は３月比で１０４%と４%アップしている。建築関係、特に鉄骨が好調で工場の新築、物流倉庫等、大型案件はもちろん、中小案件も出てきていて多少の凸凹はあるが、年内は落ち込むことは予想されない。季節要因で自動車の生産は落ちているがグローバルのKD部品が先行して送られていることにより落込みが抑えられている。工作機械やエアコン、電子部品、配電盤も好調に推移しており、ユーザー向けが例年になく動きがいい。一方で店売りが荷動き悪く、タイト感もなくなり、価格転嫁に踏み切れないのが現状。